

消防だより

10月の広報テーマ

「暖房機器の安全な取扱いの推進」

119

石油ストーブなどの 安全な取扱い

本 格的な冬の到来に備え、石油ストーブなどの暖房機器の手入れは万全でしょうか。ストーブによる火災が多く発生する季節です。ストーブ火災の主な原因は、可燃物の接触・落下、引火・ふく射、使用方法の誤り、消し忘れ、過熱、使用中の給油等となっています。

寒い時期を迎えるにあたり、これからストーブなどの暖房器具を使用する機会が多くなり、火災が発生させないように、特に次の点に注意するよう心掛けましょう。

使用にあたっての 注意事項

- ストーブの近くに紙や衣類など燃えやすいものを置かないこと。
- ストーブの近くでヘアースプレー等の引火の危険性があるものを使用しないこと。



- カーテンなどがストーブに接触しないように、それらのものから離して使用すること。
- ストーブの上方に洗濯物等を干さないこと。

使用方法



- 石油ストーブに灯油を給油する場合、火を消してから行うこと。
- カートリッジタンク式のもの

- は、給油後、タンクのふたを確実に締めること。
- 煙突は金属の支線等を使用し、固定すること。
- 就寝時、外出時には、必ず完全に消火していることを確認すること。
- 暖房シーズン前には、十分な点検・整備を行い、故障している場合は販売店に修理を依頼すること。

地震発生時の 出火防止

地 震が発生したときは、まず落ち着いて身を守らなければなりません。慌てて屋外に飛び出したりせず、丈夫な机やテーブルの下にもぐったり、家具から離れるなどして身の安全を確保し、揺れがおさまってから出火防止の行動に移りましょう。

地震の後に火災が発生することがあります。平成5年の北海道南西沖地震では奥尻島が火災による被害を受けました。地震が発生した場合の出火防止の対応として、次のことを心掛け、いざというとき落ち着いて適切な行動がとれるようにしましょう。

- 1、初期消火
地震が起きたとき、初期消火のチャンスは3回あります。
1 回目は、地震の揺れ始めのグラツと来たときです。揺れが大きくなつてからの消火は、鍋のお湯などで火傷をすることがあるので危険です。
- 2 回目は、揺れがおさまったときです。大きな揺れの最中は火を消そうとせずに、身の安全を第一にし、揺れがおさまってから火の元を確認するようにしましょう。
- 3 回目は、出火直後です。もし火事になつても、初期のうちには消火器などで十分に消すことができます。
- 2、通電火災を防ぐ
地震等で避難するときには、電気ブレーカーを一旦遮断し、電気器具のコンセントを抜いていくようにしましょう。通電後、転倒器具がないか確認し、ブレーカーを戻しましょう。
- 3、ガス漏れを防ぐ
地震の大きな揺れを感じたら、自動的にガスの供給を停止するマイコンメーターの設置が進んでいます。念のため家を空ける時には、元金を締めましょう。



4、石油ストーブの対処

最近の石油ストーブは対震自動消火装置が付いていますが、過信するのは禁物です。なんらかの原因で、対震自動消火装置が正常に作動しないことがあります。もし石油ストーブが転倒して出火したら、慌てず、火が小さいうちに消火しましょう。消火器の使用が効果的です。

統一標語

「火は見てる
あなたが離れるその時を」

fire

8月の
●火災件数
●救急件数
累計
1件
5件
37153件

